

寄稿

被災地の支援に加わって

—— 駆けつけた支援活動の中で・体験と私たちへの課題 ——

横浜市港北区社会福祉協議会

事務局次長 鏑木 克芳

私が社会福祉協議会の職員として、釜石市協災害ボランティアセンターの支援に行った感想を書かせていただきます。

震災が3月11日に起きてから、約1カ月たった4月13日(水)に、現地釜石市に向かい、約1週間災害ボランティアセンターのお手伝いとして、神奈川県内10名の社協職員と一緒に



鏑木克芳さん

はいらせてもらいました。

釜石市の被害状況と、災害ボランティアセンターの状況は、人口約4万2千に対して、死亡者700名超、行方不明者600名超、避難所避難者数4,291名という厳しい状況でした（4/28現在）。

現地に入った初日に釜石市駅周辺を回りましたが、テレビで映像として見るものとは違った、厳しい状況を肌で感じました。

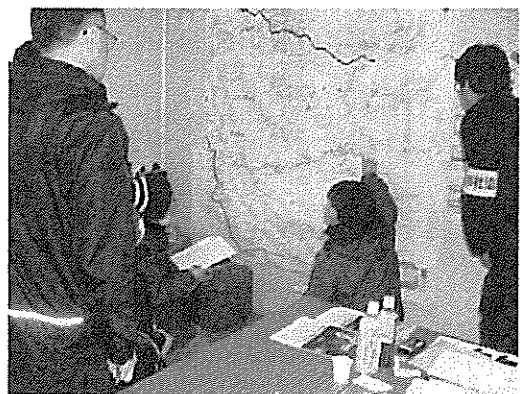
■ 4つの任務

応援に行った私たちの業務は、主に4つです。

1つは『ボランティアセンターのお手伝い』です。ボランティアセンターは朝9:00に開館すると、100名前後のボランティアさんが仮設プレハブで作ったボランティアセンター（釜石市社協は半壊で使えないため）の前に並んで待っていました。そのボランティアさんをどう行政、被災者宅のニーズにマッチングするかが大事な役割でした。

2つめは個人のニーズのうち、ボランティアでできるかの判断するための『現地調査』です。

「家具を運び出してほしい」「津波で1階に入り込んだ土を外に運び出してほしい」という依頼は来ますが、「専門職でなくてもできるか?」「安全を確保できるか?」を事前に訪



マップを前に

問し、確認する作業です。

3つめは避難所をまわり、必要な物資は届いているか、困っていることはないかということを書いていく『避難所まわり』です。避難所には行政が必要な情報を流しているのですが、避難所に指定されていないところもあるので、私たちはできるだけそのような避難所から声を聞き取り、それを災害対策本部などに情報提供する役目もありました。



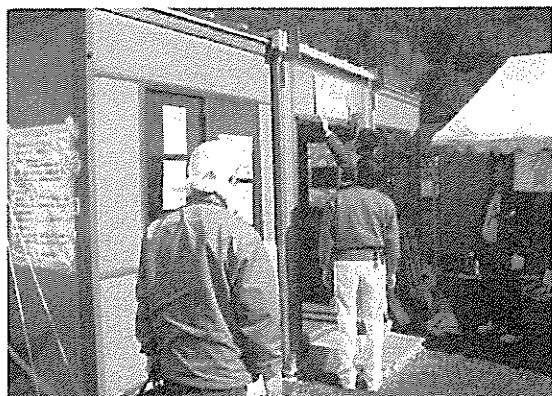
4つめは被災を受けた方々の中で、当面の生活費や帰省するための旅費など現金を緊急に調達したいという方の為の『緊急小口資金（の貸付）』の窓口です。

■ 3つの課題

お手伝いをしていく中で感じたことは大きく3つありました。

1つは、避難所をまわり、色々お話を伺ったり現地調査に行く中で、「釜石社会福祉協議会」という名前をだすと「あ〜、あそこの人か」と安心した顔で応じてくれたことです。

これは日頃、釜石の社協職員が、地域にいろいろ丁寧に親切にかかわっていた為だと思います。



います。港北で、私が“社協”と名乗って訪ねたらどうなのでしょう。

2つめは、現地のボラセンのコーディネートのお手伝いは、難しいということ。

電話を代わりにとっても方言などで会話がしっかりできなかったり、なにせ土地勘がないので「現地へ行って下さい」といっても、その現地を地図で説明するのが難しいこと、また、目印になる建物なども崩壊していて、自分たちが明細地図で確認しに行っても迷うくらいでした。

3つめは、とにかく情報と交通手段不足です。

電話回線は使えず、携帯電話・車も多く破壊され、沿岸・山道の続く地域では情報が流れるまでかなりのタイムラグがあり、住民の不安が大きくなっている状況です。



■ もし、横浜が被災したら…

現在、人材支援や義援金等で、全国の人々が東北被災地を応援しています。港北区でも多くの人たちが、熱いエールをおくっています。しかし、今私たちにしなければならない

ことは、もう一つ、この体験から「もし、横浜に直下型大地震が起きたらどうなるのだろう」ということを考えなければいけないことです。

東北海岸部のような津波はこないかもしれませんが。でも都会にくる災害の影響は、様々な形で私たちの生活を崩していくでしょう。その時、釜石の約8倍、人口32万の港北では、ますます地域の防災拠点、区の災害本部、ボランティアセンターが連携をとっていくことが求められるでしょう。

今回は関わることはできませんでしたが、障害、高齢の要援護者世帯が、避難所生活から、専門機関へ移動することも求められるでしょう。そして、どうしても必要とされる外部からの応援を、どう生かしていけるのか。

色々な生活者の視点から今後の災害対策を考えなくてはならないと、痛感した1週間の経験でした。

今回は冊子に掲載ということで、現地の生々しい話や首をかしげるような話を書けず、報告みたいなつまらない原稿になってしまいましたが、また、お会いしてお話できる機会があればお呼び下さい。

* * *

現在も神奈川県下の社協職員の釜石市社協ボランティアセンター支援は続いて、現在横浜市災害ボランティアセンターでは市民のボランティア募集派遣も検討中です。